

企業理念、グループ概要、目次、編集方針

マネジメント

トップメッセージ

ESG経営

東京建物グループのマテリアリティ

特集

環境

環境マネジメント

サステナビリティファイナンス

グリーンビルディングに関する外部評価・認証

気候変動への対応

汚染防止と資源循環

水資源

生物多様性

自然災害対策

社会

ダイバーシティ&インクルージョン

ワークライフバランス

人材投資・育成

健康経営/労働安全衛生

人権の尊重

品質・お客様満足の向上

不動産ストックの再生・活用

地域社会への貢献

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス

リスクマネジメント

コンプライアンス

サプライチェーンマネジメント

データ集

第三者保証

マネジメント

トップメッセージ

ステークホルダーの皆様からの「信頼」を力に、
真にサステナブルな「いい会社」を目指します。

ステークホルダーにとって「いい会社」であってこそ、
サステナブルな存在になりうる

東京建物は、1896年に旧安田財閥の創始者・安田善次郎によって設立された日本で最も歴史のある総合不動産会社で、近代日本資本主義の父である渋沢栄一も創業に深くかかわりました。近年、従来の資本主義が生み出していた格差拡大や短期的な利益志向を修正する「ステークホルダー資本主義」が世界中で注目を浴びていますが、こうした考え方は、安田、渋沢をはじめとする多くの起業家たちが時代に先んじて、「道徳と経済は両立させることができる」と志し、現在まで連綿と続いているといえるでしょう。なかでも当社グループは、その精神を色濃く受け継ぐ企業だと考えています。

2020年2月に策定した長期ビジョン「次世代デベロッパーへ」では、私たちの事業を通じて「社会課題の解決」と「企業としての成長」をより高い次元で両立することで、すべてのステークホルダーにとっての「いい会社」を目指すと掲げています。これは当社が理想とする企業像を端的に表したものです。長期ビジョンに示した「いい会社」とは、社員それぞれが胸を張って誇れる仕事をしていること、家族からもその仕事が認められること、ひいては、当社グループがすべてのステークホルダーから評価していただける会社であることを意図しています。これは、ある瞬間を捉えて、すべてのステークホルダーにとって最善の状態にあるということではなく、中長期的な視点で見た時に、全方位にバランスよく配慮を尽くしていくことを意味するものであり、それが結果として企業価値を高め、当社グループをサステナブルにしていくのだと、私は考えています。

当社グループはこれまで、事業の規模や売上の成長だけでなく「質」にもこだわり、お客様の立場に立って事業を展開してきました。こうした姿勢がステークホルダーの皆様からの「信頼」を得るうえで必要であり、「信頼」なくして、当社グループのサステナブルな事業成長はないと確信しています。

東京建物株式会社
代表取締役 社長執行役員
野村 均

企業理念、グループ概要、目次、編集方針

マネジメント

▶ **トップメッセージ**

ESG経営
東京建物グループのマテリアリティ

特集

環境

環境マネジメント
サステナビリティファイナンス
グリーンビルディングに関する外部評価・認証
気候変動への対応
汚染防止と資源循環
水資源
生物多様性
自然災害対策

社会

ダイバーシティ&インクルージョン
ワークライフバランス
人材投資・育成
健康経営／労働安全衛生
人権の尊重
品質・お客様満足の向上
不動産ストックの再生・活用
地域社会への貢献

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス
リスクマネジメント
コンプライアンス
サプライチェーンマネジメント

データ集

第三者保証

マテリアリティを見直し、社会課題解決へ向けた取り組みを加速

2020年は、新型コロナウイルス感染症による都市封鎖や人の移動自粛などが広がり、世界経済が大きく揺れました。一方で、ESGへの取り組みに対する社会からの要請が大きく高まった1年でもあり、世界のESG投融資額は7,300億ドルを超え、気候変動分野では世界の多くの国に続き、日本も2050年のカーボンニュートラルを宣言するに至りました。

長期ビジョン「次世代デベロッパーへ」は、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)のターゲットイヤーとも重なる2030年頃を見据えたものです。SDGsへの貢献にも、当社グループがステークホルダーの皆様との信頼関係を創り出す努力のなかで、自ずと取り組んできたことと符合する部分が多くあります。そこで、従来のサステナビリティへの取り組みを改めて整理し、グループ全体でさらに加速していくため、長期ビジョンの策定と時を同じくして、私が直接管轄する「サステナビリティ委員会」を設置しました。

本年6月には、急速な社会情勢の変化に対応すべく、取締役全員が検討会議に参加し、マテリアリティ(重要課題)を改定しました。長期ビジョンの達成に向けて、事業を通じて社会と共有する価値を意識し、取り組むべき重要課題の見直しを行い、新たに14のマテリアリティを特定しました。

また、事業活動全体での人権尊重や持続可能で責任ある調達のために、本年5月に「東京建物グループ 人権方針」および「サステナブル調達基準」を制定しました。

100年を超え根付く「進取の精神」が、長期ビジョンの実現を支える

社会課題解決に関する先進的な取り組みも、実を結びつつあります。

「Hareza池袋」内に2020年5月に竣工したオフィス棟「Hareza Tower」は、「ZEB Ready」認証を取得しました。これは超高層複合用途ビルにおける認証第1号案件です。また、「Brillia Tower 聖蹟桜ヶ丘ブルーミングレジデンス」(2021年3月販売開始)では「ZEH-M Oriented」の基準を満たし、首都圏で唯一「平成31年度 超高層 ZEH-M実証事業」に採択されるなど環境分野で業界を牽引する物件を手掛けています。

2020年7月には不動産業界として国内初となるサステナビリティボンドを発行しました。一般事業会社のサステナビリティボンドでは、国内で最大の発行額となり、最多の投資表明をいただいています。これは、東京駅周辺の「八重洲・日本橋・京橋エリアのまちづくり」という、個々のビルの環境性能向上にとどまらず、社会・環境の両面の課題に包括的に取り組む一連のプロジェクトを

資金使途とする先進的な試みです。当社が推進している八重洲・日本橋・京橋エリアにおける再開発事業は、大企業、ベンチャー企業、投資家、研究機関など、産学官の様々なプレイヤーが集積し、交流する「イノベーション・エコシステム」を構築することで、新分野の開拓や経済成長の好循環が生み出されるまちづくりを目指しています。

このほか、多様化するライフスタイルへの対応も進めています。2020年7月にモデルルームをオープンし、9月から販売を開始した「Brillia City西早稲田」では、子育てのしやすい間取りや共用部の設計とともに、在宅勤務やテレワーク需要の増加に応え、地域住民の方も利用可能なコワーキングラウンジを設置することで、お客様より高い評価をいただいています。

こうした新たな取り組みを重ね、まちの魅力を向上させていくという姿勢は、創業からの「進取の精神」のもとに、過度に失敗を恐れず、果敢に新しいことに挑戦するという考えを当社グループが受け継いできた証であり、今後も長期ビジョンの実現に向けた原動力になると考えています。

お客様と真摯に向き合い、確固たる「信頼」を未来へ

社会の変化が激しいこの時代、そして将来、不動産テックなどのIT技術がさらに進歩したとしても、「信頼」を大切にするという私たちの企業理念は、決して失ってはならないDNAだと私は強く信じています。

「信頼」を創り出す源泉は、社員一人ひとりのお客様との向き合い方です。私は折に触れ、社員に対し「お客様から見聞きした情報だけでなく、お客様の気持ちや立場も理解したうえで、物事の本質を捉え、そこから意味を感じ取り、新しい価値を生み出していく能力を磨いてほしい」と伝えています。お客様やお取引先様との信頼関係が次のビジネスにつながっていく。これが当社が目指すべき事業展開といえます。どれだけ大きなプロジェクトも情報を得ることからスタートします。「まずは東京建物さんに」といち早くお声がけいただけるよう、一人ひとりが本質を見抜く力を磨き、未来へ続く「信頼」を創り出してほしいと思っています。

当社グループは、ステークホルダーの皆様との「信頼」を力に今後も持続的な成長を目指してまいります。ステークホルダーの皆様には、今後とも当社グループへのご理解と一層のご支援を賜りますよう、よろしくご願い申し上げます。

2021年6月